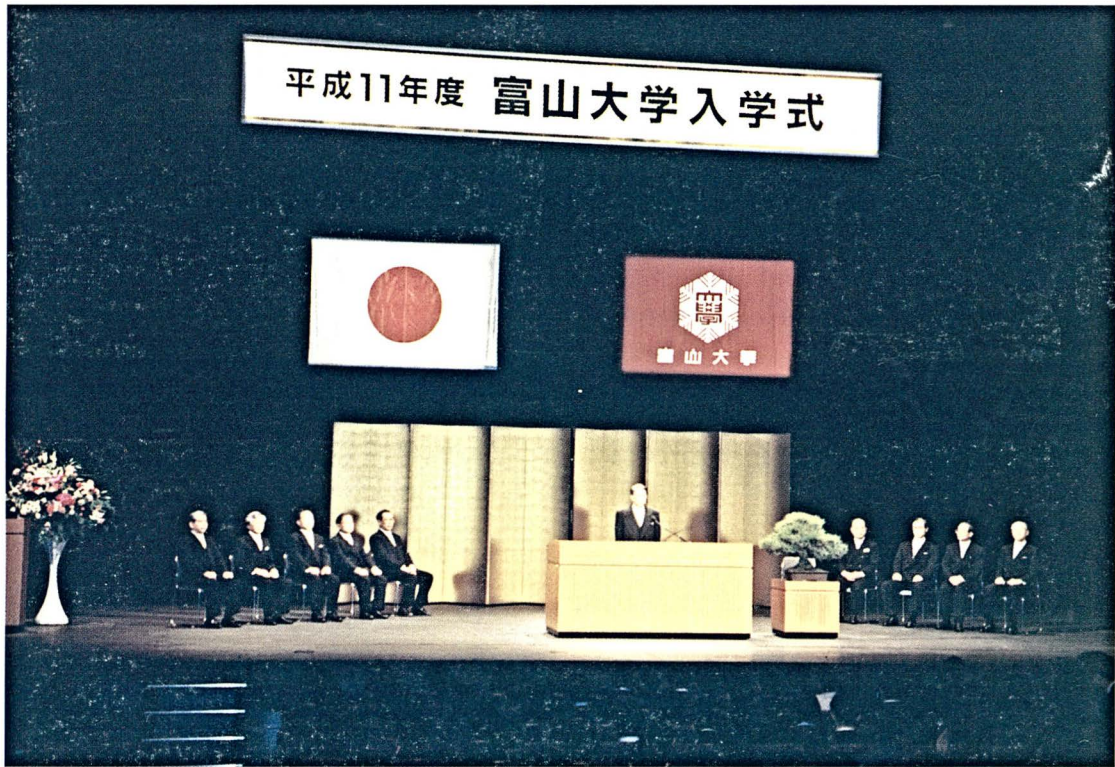




(題字 時澤 貢 学長)

第412号
(平成11年 4月号)



▲ 平成11年度富山大学入学式：平成11年 4月12日（月）富山市芸術文化ホール

目 次

学 長 告 辞 3	人 事 異 動 11
◆ 平成11年度入学式を挙	
関 係 法 令 5	学 内 諸 報 11
	◆ 人文学部長に鈴木敏昭教授を再選
学 内 規 則 5	◆ 大学改革に向けて附属図書館が情報リテラ
◆ スペース・コラボレーション・システム事	シー教育用テキストを作成
業実施委員会規則の制定	◆ 開学50周年記念事業後援会の本多正道会長
	らが学内を視察
諸 会 議 7	◆ 海外渡航者
	◆ 外国人来訪者
学 事 8	職 員 消 息 13
◆ 学位取得	◆ 住所変更
◆ マレーシア工科大学と学术交流協定を締結	◆ 新任者住所
(継続)	
◆ 平成11年度国際交流事業基金による各種事	主 要 行 事 17
業の採択	
◆ 平成11年度公開講座の実施計画	資 料 19
	◆ 平成11年4月入学者数一覧



▲ 入場する新入生



▲ フィルハーモニー管弦楽団の演奏



▲ 入学許可宣言を受ける

学 長 告 辞

平成11年度入学式を盛大に挙行

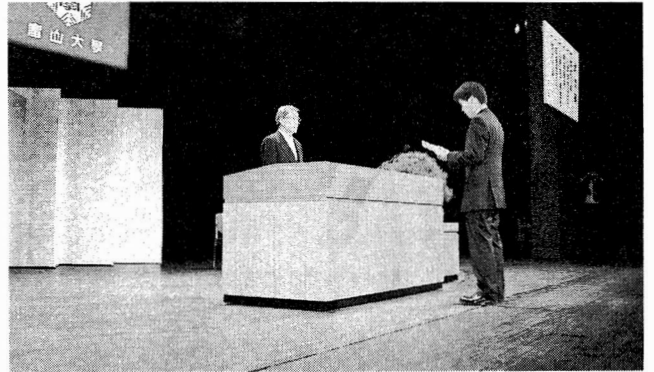
— 学部学生1,579人，大学院学生282人，計1,861人の入学を許可 —

平成11年度富山大学入学式が、去る4月12日（月）午前10時30分から富山市芸術文化ホールにおいて挙行されました。

最初に、時澤学長から学部学生1,579人，大学院学生282人，合計1,861人（外国人留学生67人を含む。）に対する入学許可宣言があり、引き続き告辞がありました。

その後、工学部電気電子システム工学科青木雄佑君が新入生を代表して「入学生一同は、在学中、学則を守り、自己の研鑽に努め、さらなる未来への展望を広げるとともに、より一層の学識を深めるよう努力します。」と宣誓し、厳粛に式を終了しました。

なお、新入生を歓迎して、開式前には本学フィルハーモニー管弦楽団の演奏が、閉式後にはギターマンドリン

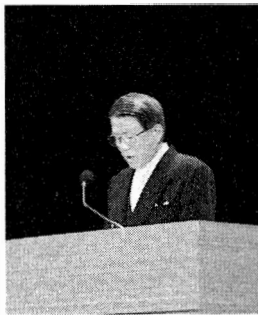


▲ 新入生代表 青木雄佑君が宣誓

クラブの演奏と合唱団の合唱がありました。

また、式終了後、引き続き教養教育及び学生部・保健管理センターのオリエンテーションが実施されました。

◇入学式学長告辞（全文）◇



▲ 告辞をする時澤学長

本日、ここに平成11年度富山大学入学式を挙行いたしますことは、本学にとって誠に喜ばしいことであります。留学生67名を含む総数1,861名におよぶ入学生の皆さん、ご両親およびご家族の方々に心からおめでとうとお祝い申し上げます。

富山大学は、人文、教育、経済、理学、工学の5つの学部からなり、人文・社会科学系と自然科学系を有する総合大学です。また、人文科学、教育学、経済学の大学院各研究科修士課程、理学と工学を融合した大学院理工学研究科博士課程が設置されています。

ただいま入学許可をしました、学部学生1,579名、大学院修士課程（博士前期課程）244名、大学院博士後期課程38名、総数1,861名の極めて優秀な新しい仲間を迎えることができましたことは、私共教職員はじめ本学関係者の大きな喜びとするところであります。五福の富山大学キャンパスには、学生、教職員合わせて約8千名が

滞在しており、大学は大きなコミュニティとして、その使命を果たすべく日夜努力しているところであります。

大学の目的は、学校教育法に示されているとおり、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的としています。入学生の皆さんは、これから「大学とは何か」「大学では何をどのように学ぶか」という目的意識を明確にしてください。

学部学生の皆さんは、四年一貫教育の中で、教養教育と専門教育とを大学教育の両輪として位置づけ、教養教育においては、社会の国際化、情報化に対応して外国語を含む言語表現能力や情報活用能力を養うとともに、特に文系の人たちは理系の、理系の人たちは文系の学問を身につけて、もちろん、自分の好きな学問に打ち込むのもたいへん重要です。広い視野・知識と健全な批判精神、総合的判断力などを身につけることを期待します。

大学院生の皆さんには、更に深い研究能力、高度の専門性を要する職業に必要な知識や技能の育成に努められ、新しい発想で企画力、展開力そして研究指導力を有する創造的な素養を身につけることを期待します。

さて、富山大学は今年50周年を迎えます。この間、本学は数万名に及ぶ卒業生を富山県を中心として、東海、北陸地区に送り出し、今日社会の各界各層の要職として活躍され、産業・経済・文化の発展に貢献されるなど本学の誇りとするところであります。

20世紀も残すところわずかとなりました。戦後、日本人は懸命に働き、世界史上類を見ない経済発展を遂げ、世界有数の経済大国へと成長しました。しかし、近年我が国は21世紀への国際社会において、政治・経済はもとより、人類の未来に立ちほだかる諸問題の解決への貢献、人類共通の知的資産の創造、新たな文化や価値観の創造等において、国際社会でリーダーシップを発揮できる国として、積極的役割を果たしていくことが求められています。これらの問題は人類あるいは国民の英知を結集することによってのみ解決が可能であり、このような意味での新しい知恵を創造し、社会の繁栄に貢献することが、学術の中心としての大学に求められているところであります。これを契機として、富山大学の更なる発展を導く道標とするため、本年3月、「富山大学の理念」を決定いたしました。その5つの柱は、

- 一、生命を尊重する共生の精神
- 二、社会と共栄する学術研究の推進
- 三、豊かな人間性と創造性を培う教育
- 四、地域社会や国際社会への貢献
- 五、たゆまざる自己啓発・自己改革であります。

本学の創立50周年の記念の年を迎え、本学の一人一人がこの新たな理念のもとに結集し、その目的達成に向けて日々精進することによって新しい世紀の更なる発展に努力する所存であります。

大学教育は、一般的には教員の質によって決まると言っても過言ではなく、研究の裏付けなくては教育はできません。したがって、研究を進めることは、教育を充実させることだと私は信じています。これまでの日本の教育を「みこし」で例えるならば「かつぎ屋」を量産し、かつてはこのような人材が必要であったのです。しかし、これからの教育は、「みこし」になるような個性に輝く人材の育成が必要とされています。

入学された学部学生の皆さんには、学問の裾野を広げる共通教育による幅広い知識、人間性を重視した人文的教養、理工系にあっては、専門学習の基礎教育等の3つのキーワードから教養教育の果たすべき役割を認識していただき、専門教育との連携によりそれぞれの専門分野における思考力、表現力、創造力の涵養に努めてください。

一方、大学院生の皆さんには、更に深い研究能力の育成に努められ、新しい発想で、企画力、展開力そして研究指導力を有する創造的な素養を身につけることを期待します。

資源を持たない我が国では「人」だけが資源であることを忘れてはなりません。21世紀は「知の時代」、人間の知性と理性を大切な資源とすれば、「人づくり」や「研究」が不可欠となります。

新入生の皆さんは、本学でよく学びよく遊んで過ごしてください。本学には、約200名の留学生が学んでいます。その大部分は中国などアジアからです。留学生の皆さんとの交流により、国際感覚を身につけてください。若いときに異文化に触れることは得難い体験となります。課外活動などを通じ、協調性を育て、体も心も大いに鍛えてください。皆さんにとってかけがえのない青春時代をどのように過ごすかが一人一人に問われています。また、大学で良い友人、師にめぐり会うことが皆さんの人生にとって大切なものとなります。本日皆さんに入学の挨拶ができることも、長い人生の中での一人一人の「出会い」であります。この出会いを大切に、「高い知性と感性」を磨き、理想、願望を具体的な計画に変え実行することが「未来創造への生きがい」であると信じています。

幸い富山県は、豊かな生活環境においても全国レベルにあり、立山連峰、日本海など山と海に近く、四季を通じての興味を膨らませ、快適で健康な交流が深められることを付言して告辞とします。

平成11年4月12日

富山大学長 時 澤 貢

関 係 法 令

(省 令)

- 大学入学資格検定規程の一部を改正する省令(文部25)(平11. 4. 6 官報第2600号)
- 日本育英会が学資の貸与を行う場合の認定の基準及び方法に関する省令の一部を改正する省令(文部28)(平11. 4.30 官報第2617号)

(規 則)

- 人事院規則9-1(非常勤職員の給与)の一部を改正する人事院規則(人事院9-1-16)(平11. 4. 1 官報号外第62号)
- 人事院規則9-6(俸給の調整額)の一部を改正する人事院規則(同9-6-36)(同上)
- 人事院規則9-8(初任給, 昇格, 昇給等の基準)の一部を改正する人事院規則(同9-6-38)(同上)
- 人事院規則9-17(俸給の特別調整額)の一部を改正す

る人事院規則(同9-17-73)(同上)

- 人事院規則9-30(特殊勤務手当)の一部を改正する人事院規則(同9-30-38)(同上)
- 人事院規則9-68(義務教育等教員特別手当)の一部を改正する人事院規則(同9-68-6)(同上)
- 人事院規則11-8(職員の定年)の一部を改正する人事院規則(同11-8-12)(同上)
- 人事院規則16-0(職員の災害補償)の一部を改正する人事院規則(同16-0-26)(同上)

(告 示)

- 大学入学資格検定規程第5条第5項の規定に基づき知識及び技能に関する審査を定める件(文部69)(平11. 4.1官報号外第62号)

学 内 規 則

富山大学スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会規則の制定

富山大学スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会規則の制定理由

富山大学のスペース・コラボレーション・システム事業の実施のため, 所要事項を定める。

富山大学スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会規則を次のとおり制定する。

平成11年4月16日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会規則

(設 置)

第1条 富山大学に, スペース・コラボレーション・システム事業実施要綱(平成7年12月12日スペース・コラボレーション・システム事業連絡協議会制定)第8

の規定に基づき, 富山大学スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(定 義)

第2条 この規則において「スペース・コラボレーション・システム事業」(以下「SCS事業」という。)とは, 大学, 高等専門学校及び大学共同利用機関が衛

星通信による映像交換を中心としたネットワークを構築し、高度情報通信社会にふさわしい教育・研究利用を推進するものをいう。

(審議事項)

第3条 委員会は、全学的な共同利用に供するSCS事業の実施に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) SCS事業計画に関すること。
- (2) SCS事業の運営方法に関すること。
- (3) SCS事業に関わる規則等の制定・改廃に関すること。
- (4) その他SCS事業の実施に関し必要な事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各学部から選出された教員(教授、助教授又は専任講師) 各1人
- (2) 教養教育委員会から選出された教員(教授、助教授又は専任講師) 1人
- (3) 地域共同研究センター、生涯学習教育研究センター、総合情報処理センター、留学生センター、水素同位体科学研究センター及び保健管理センターから選出された教員(教授、助教授又は専任講師) 各1人
- (4) 庶務部長、経理部長、学生部次長及び附属図書館事務部長
- (5) その他委員会が必要と認めた者

2 前項第1号、第2号、第3号及び第5号の委員は、学長が委嘱する。

3 第1項第1号から第3号までの委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場

合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第5号の委員の任期は、委員会が定める。
(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成11年4月16日から施行する。



第1回留学生センター運営委員会（4月9日）

（審議事項）

- (1) 留学生センターの副センター長について
- (2) 教官の公募について
- (3) 平成11年度日本語課外補講講師（非常勤）について
- (4) 日本語研修コースについて
- (5) その他

第1回事務改善委員会（4月13日）

（審議事項）

庁用車の運行管理体制について

第1回事務協議会（4月13日）

（審議事項）

当面の諸課題について

第1回部局長懇談会（4月16日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第1回評議会（4月16日）

（審議事項）

- (1) 富山大学スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会規則の制定について
- (2) 学生の懲戒について
- (3) 学生の除籍について
- (4) その他

第1回低温液化室運営委員会（4月19日）

（審議事項）

- (1) 平成10年度運営費決算（案）について
- (2) 平成11年度運営費予算（案）について
- (3) その他

第1回放射性同位元素総合実験室運営委員会（4月19日）

（審議事項）

- (1) 平成10年度運営費決算（案）及び平成11年度運営

費予算（案）について

- (2) 平成11年度放射性同位元素等の使用申請（案）について
- (3) その他

第1回環日本海地域研究センター運営委員会（4月20日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度事業計画について
- (2) 平成11年度共通経費について
- (3) 受託研究について
- (4) その他

第1回附属図書館商議会（4月21日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度学内共通経費の要求について
- (2) 図書館情報システムの更新について

第1回水素同位体科学研究センター運営委員会（4月23日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度水素同位体科学研究センター使用申請及び放射線業務従事者の登録について
- (2) 水素同位体科学研究センター専門委員会委員について
- (3) その他

第1回自己点検評価委員会（4月26日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度自己点検評価について
- (2) その他

第1回体育施設委員会（4月26日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度体育施設運営費について
- (2) 平成12年度概算要求について
- (3) その他

第1回将来計画委員会（4月27日）

（審議事項）

- (1) 委員会の構成について
- (2) 本学の将来構想・特色について
- (3) その他

- (1) 平成11年度大学院入学生の入学料免除者の選考について
- (2) 平成11年度学部入学生の入学料免除者の選考について
- (3) その他

第1回授業料等減免選考委員会（4月27日）
（議 題）

学

事

学 位 取 得 者



所属・職・氏名	工学部 助手 宮 武 滝 太
学位の種類	博士（理学）（大阪大学）
取得年月	平成11年3月25日
学位論文名	ボレピン骨格を構成要素とする二環性共役ホウ素化合物に関する研究
論文の要旨	この論文では、電子供与性基としてピロール、電子受容性基としてボレピンを用いた分極した共役系分子を合成し、物性の検討を行っている。その結果、1) ボレピンが共役系を通し電子受容性基として有効に働く、2) 縮環形式によってホウ素共役系の電子状態や電子受容性などの性質が大きく異なる、3) ホウ素は基底状態に比べ励起状態において共役系と強く相互作用する—といった含ホウ素共役系の特性を明らかにすることができた。

マレイシア工科大学と学術交流協定を締結（継続）

去る4月14日、マレイシア工科大学と大学間学術交流協定の継続のため、協定の締結が行われました。

本学学長室で行われた調印式には、本学から時澤学長、能登谷、小澤両学長補佐、各学部長及び事務局長が、マレイシア工科大学からはアーマド・イドラス副学長とバロム・サヌギ研究管理センター長、マルツキ・カリダ知能及びロボット工学センター長が出席し、時澤学長とイドラス副学長が協定書に署名し、両大学間の学術交流の促進、協力が確認されました。

このたびの協定締結は、平成5年10月に締結した交流協定が5年を経過したことに伴うものであり、今後、一層充実した交流が実施されていくものと期待されます。



▲ 握手する時澤学長とイドラス副学長

平成11年度富山大学国際交流事業基金による各種事業の採択

○ 第1種海外派遣事業（B）

部局	職名	氏名	派遣期間	訪問先	研究課題
経済学部	助教授	秋葉 悦子	11. 9.20～11.10. 3（14日間）	ローマ教皇庁科学アカデミー ローマ教皇庁立グレゴリア大学 （イタリア）	出生前の人の生命の法的規制
理学部	教授	川崎 一郎	11.12.19～11.12.23（5日間）	カリフォルニア大学サンタバーバラ校地殻ダイナミクス研究所 （アメリカ合衆国）	地球自由振動によるコアの構造とダイナミクス
工学部	助教授	佐藤 雅弘	11.10.17～11.10.22（6日間）	レイクタホ市 ネバダ州 （アメリカ合衆国）	直線集束ビーム超音波顕微鏡の非定常数値シミュレーション
工学部	助教授	堀田 裕弘	11. 4.24～11. 4.29（6日間）	サバナ市 ジョージア州 （アメリカ合衆国）	歪要因とテクスチャ特微量に基づく白黒画像の品質評価モデルに関する研究

○ 第2種外国人研究者招へい事業（B）

申請教官			招へい期間	招へい研究者		研究課題
部局	職名	氏名		氏名	所属・職	
理学部	教授	渡辺 義之	11. 7.20～11. 7.24（5日間）	Suh Young Jin （徐 泳 鎮） （大韓民国）	慶北大学校 自然科学大学 教授	リーマン沈みこみと接束の幾何学

○ 第3種外国留学への奨学事業

フリガナ氏名	性別	学籍番号	所属	学年	留学先	留学期間
キボク タクロウ 木ト 卓郎	男	9710030251	人文学部 言語文化学科	3	イルクーツク国立言語総合大学 （ロシア連邦）	平成11年4月1日～ 平成12年3月31日
コジマユキコ 小島有紀子	女	9610030202	人文学部 言語文化学科	4	天津外国語学院 （中国）	平成11年2月22日～ 平成12年2月22日
サイトウ リエ 斎藤 理恵	女	9610030249	人文学部 言語文化学科	4	パッサウ大学 （ドイツ連邦共和国）	平成11年3月1日～ 平成12年2月28日
マツダチサト 松田智沙登	女	9830021055	経済学部 経済学科	2	江原大学校経営大学 （大韓民国）	平成11年9月1日～ 平成12年8月31日

平成11年度公開講座

平成11年度富山大学公開講座として次の14講座が実施されます。

区分	講 座 名	開 設 日 時	申 込 期 間	開講時間	受 講 料	対 象	定員	実 施 場 所
教 養 講 座	学ぼう！遊ぼう！あすの保育 を求めて	5月19日～7月14日 水曜日 19時～20時30分 8回 19時～21時	5月10日～5月17日	14 時間	円 6,500	市民一般	25名	富山大学教育 学部
	パソコン教室（I）Windows 入門	6月5日～7月3日 土曜日 9時～12時 5回	5月24日～6月2日	15	6,500	市民一般	20名	富山大学 総合情報処理 センター
	グローバルスタンダードと事 業創造	6月15日～6月29日 火・木曜日 18時30分～20時30分 5回	5月31日～6月11日	10	5,500	市民一般	40名	富山大学 黒田講堂
	世紀末を考える	6月19日～7月17日 土曜日 13時～16時 5回	6月7日～6月16日	15	6,500	市民一般	30名	富山大学 人文・社会系共 通教育棟
	化学は語る	7月24日～9月11日 土曜日 14時～15時30分 6回	7月12日～7月22日	9	5,500	市民一般	30名	〃
	子どものメンタルヘルス	9月18日～10月30日 土曜日 14時～16時 7回	9月6日～9月16日	15	6,500	市民一般	30名	〃
	富山学（I）	11月6日～12月18日 土曜日 14時～16時 7回	10月18日～11月2日	14	6,500	市民一般	50名	〃
	生涯学習入門	11月18日～12月2日 木曜日 13時30分～16時30分 3回	11月1日～11月16日	9	5,500	市民一般	15名	〃
健 康 ・ ス ポ ー ツ 講 座	健康・スポーツ教室 「硬式テニス（初心者）コース」	7月28日～8月1日 18時～21時	7月5日～7月23日	15	6,500	市民一般	20名	富山大学 テニスコート 第一体育館
	健康・スポーツ教室 「ゴルフ（初級者）コース」	8月18日～8月27日 6時～8時 7回 (26日は、13時～16時)	7月26日～8月12日	15	6,500	市民一般	20名	呉羽カントリー
	健康・スポーツ教室 「ジョギング・ランニングコース」	8月21日～9月15日 18時～20時 10回	8月2日～8月19日	20	7,500	市民一般	20名	富山空港緑地 陸上競技場
	健康・スポーツ教室 「硬式テニス（初級者）コース」	12月17日～12月21日 18時～21時 5回	11月29日～12月10日	15	6,500	市民一般	20名	富山大学 第一体育館
	「親子スキー教室」	1月22日～1月23日 (2日間)	12月1日～12月22日	15	6,500	市民一般 (親子)	20組	牛岳スキー場
体 験 講 座	いろいろな流れの科学	7月27日 9時30分～16時 7月28日 10時～17時	6月12日～6月23日	12	無 料	中 学 生	40名	富山大学 工学部

(注) 各講座は、県民カレッジと連携講座になっています。(ただし、「いろいろな流れの科学」(体験講座)は除く。)

問い合わせ先：富山大学生涯学習教育研究センター 〒930-8555 富山市五福3190番地

TEL (076) 445-6956 FAX (076) 445-6960

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	11. 4. 5	高 堂 弘		技能補佐員（施設課機械操作手）
	11. 4. 8	松 井 輝 代		臨時用務員（教育学部炊婦）
	”	堰 免 芳 子		” （ ” ）
	11. 4. 14	近 藤 俊 彦		事務補佐員（附属図書館情報サービス課）
	”	高 山 恭 一		” （ ” ）
	”	稲 葉 智 裕		” （ ” ）
	”	望 月 昇		” （ ” ）
	”	島 先 厚 至		” （ ” ）
	”	甲 斐 英 高		” （ ” ）
	”	中 根 一 剛		” （ ” ）
	”	加 藤 奏		” （ ” ）
	”	11. 4. 26	上 樂 由 利 恵	
”	”	湯 野 秋 子		” （人文学部・理学部）
昇 任	11. 5. 1	渡 邊 信	助教授 教育学部（理科教育）	教 授 教育学部（理科教育）
辞 職	11. 4. 15	細 川 由 美	事務補佐員（庶務部企画室）	辞 職
併 任	11. 4. 2	宮 下 尚	教 授（工学部）	工学部長・評議員（～13. 4. 1）

学 内 諸 報

人文学部長に鈴木敏昭教授を再選



鈴木敏昭人文学部長の任期が平成11年5月1日をもって満了することに伴い、人文学部教授会は、平成11年3月10日(木)に次期学部長候補者の選挙を行いました。その結果、鈴木敏昭教授が再選されました。任期は、平成11年5月2日から2年間。

鈴木教授は、昭和47年3月東京大学文学部を卒業、同50年3月東京大学大学院人文科学研究科修士課程を修了、同53年3月東京大学大学院人文科学研究科博士課程を単位取得退学後、同年4月東京大学文学部助手に採用となり、同55年4月富山大学人文学部教授となり、現在に至っています。

この間、同9年5月2日から同11年5月1日までの2年間人文学部長を併任されています。

専門は、心理言語学、愛知県出身。

就任の抱負

ほとんど毎日のようにマスコミのどこかで大学の問題

が取り上げられ、大学に寄せる社会の関心がそれだけ高まっていることが示されています。現在ほど、大学の果たすべき社会的役割について強く問い直しが迫られている時期はありません。「存亡の危機」という言葉が叫ばれ、大学改革のメニューとスケジュールがわれわれの前に提示されつつあります。

確かに、われわれが猶予なく取り組まなくてはならない課題が山積していることは間違いありません。しかし、むしろこうした状況にあってこそ、大学の原点に立ち返って考えてみるということが必要になるのではないのでしょうか。与えられた条件は条件として、その中でどのように原点から導かれる方針を実現していくのが課題になると考えます。

限られた制約の中で、基本理念に基づいた具体的・個別的な方策を実行していくのは簡単ではありませんが、幸いにも人文学部には若いエネルギーと先人から引き継いだ知恵があります。全構成員の英知を集めて未来への展望を切り開くことができるように努力したいと考えています。

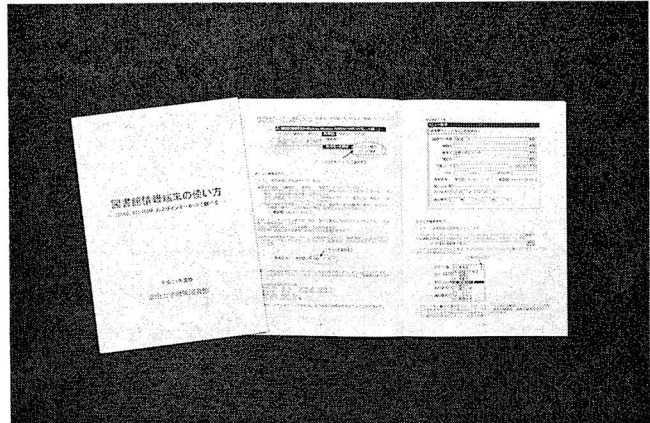
大学改革に向けて附属図書館が情報リテラシー教育用テキストを作成

附属図書館は、平成11年度から教養教育の授業等で使用してもらえるように、このほど「図書館情報端末の使い方」というテキストを作成した。

新入生は、教養教育の授業科目である「情報処理」又は「言語表現」のいずれかを選択履修することになっている。「情報処理」のテキスト改訂に当たり、本学教養教育委員会情報処理教育部会から附属図書館に図書館の情報検索についての執筆依頼があった機会に、「言語表現」のテキストを新たに作成することにした。これにより、新入生の殆どが、図書館の情報検索法について同じ中身の基礎知識・技能を修得することが可能となり、その意義は大きい。

新しいテキストは、A4判本文44ページの冊子体で、内容は語りかけるように懇切丁寧に書かれており、要所には画面表示もされている。

図書館増築後、「言語表現」の担当教官からの求めに応じて、図書館員が図書館利用についての説明を行っているが、その時に配布した資料、それに附属図書館報「書香」でシリーズ掲載した情報検索法の解説を基に、



館員が日常業務の傍ら加筆して一冊のテキストとしてまとめあげたものである。

このテキストの作成については、教養教育委員会言語表現教育部会長にも報告されており、附属図書館では「言語表現」を担当される先生方にこのテキストの使用を望んでいる。

なお、テキストは毎年改訂することとしており、授業以外には附属図書館で開く利用説明会等の配布資料として使う予定である。

開学50周年記念事業後援会の本多正道会長らが学内を視察

4月21日(水)、開学50周年記念事業後援会の理事会が開催され、富山大学の開学50周年事業遂行のため、富山大学へ8,000万円寄附することが承認されました。

理事会終了後、本多会長をはじめ、荒井、西田、松谷、平田、柳田理事及び清水監事が国際交流会館、人文学部及び附属図書館（ヘルン文庫）を視察されました。

一行は、各施設で学部長、館長の出迎えを受けた後、施設の説明を熱心に聞かれました。



▲ ヘルン文庫を視察

(海) (外) (渡) (航) (者)

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	教授	大森克史	フランス	「自由界面を持つ流れ現象の有限要素スキームの研究」についてのレビューを受けるため	11. 3. 13) 11. 3. 21
	工学部	助教授	堀田裕弘	アメリカ合衆国	画像符号化シンポジウム(PCS 99)に出席, 研究打合せ	11. 4. 19) 11. 4. 30
海外研修	工学部	教授	熊澤英博	大韓民国	共同研究の打合せ	11. 4. 4) 11. 4. 8
	理学部	助教授	藤浩明	連合王国 オランダ ドイツ	第14回欧州地球物理学会に出席, 講演	11. 4. 8) 11. 7. 19
	経済学部	助教授	小野理恵	ドイツ	ゲーム理論及び社会選択理論の研究	11. 4. 13) 11. 10. 1
	工学部	教授	坂井純一	アメリカ合衆国	宇宙プラズマでの磁気再結合についての共同研究	11. 4. 18) 11. 5. 6
	人文学部	外国人教師	ローベネ ザビーネ	中国	外国語としてのドイツ語及びドイツ学についての国際会議に出席, 文献収集	11. 4. 24) 11. 5. 3
	人文学部	助教授	葉柳靖子	スイス	リルケ後期詩作品に関する文献収集	11. 4. 27) 11. 5. 7

(外) (国) (人) (来) (訪) (者)

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入先	期間
Tomasz Tadeusz Suchecki (ポーランド)	ポーランド科学アカデ ミー環境工学研究所副 所長	「窒素酸化物および硫黄酸 化物の湿式同時除去」に関 する研究	工学部教授 熊澤英博	11. 2. 18) 11. 3. 31

(職) (員) (消) (息)

〈住所変更〉

部局名	職名	氏名
人文学部	文部事務官 (学務第一係)	中村良恵
経済学部	文部事務官 (教務係)	高橋知裕
工学部	助手 (電子デバイス学)	中茂樹
〃	文部技官 (プロセス工学)	大久保篤志

〈新任者住所〉

部 局 名	職 名	氏 名
庶 務 部	庶務課長	山 本 宏
〃	文部事務官 (庶務係)	穴 田 さおり
〃	文部事務官 (人事課専門員)	林 征 紀
〃	文部事務官 (人事課専門職員)	櫻 井 雅 和
〃	文部事務官 (人事課専門職員)	太 田 則 春
〃	文部事務官 (企画係)	竹 内 由 利
経 理 部	経理課長	鈴 木 國 夫
〃	文部事務官 (給与主任)	上 木 祐 一
〃	文部事務官 (給与係)	日 俣 詠里子
施 設 課	技能補佐員 (廃液処理施設)	高 堂 弘
学 生 部	留学生課長	柳 瀬 邦 夫
〃	臨時用務員 (作業員)	並 木 三智子
人 文 学 部	講 師 (人文学科歴史文化)	小 林 功
〃	講 師 (言語文化学科日 本東洋言語文化)	和 田 とも美
〃	助 教 授 (言語文化学科ヨー ロッパ言語文化)	黒 田 ^{きよし} 廉
〃	外国人教師	時 衛 国
教 育 学 部	助 教 授 (社会科教育)	藤 原 孝 章
〃	助 教 授 (学校教育)	堀 井 啓 幸
〃	文部事務官 (経理主任)	小 森 功
〃	文部事務官 (会計係)	大 川 純

部 局 名	職 名	氏 名
教 育 学 部	臨時用務員 (会 計 係)	中 川 孝 雄
”	教 頭 (附 属 小 学 校)	杉 本 豊 一
”	教 諭 (附 属 小 学 校)	松 永 和 久
”	教 諭 (附 属 中 学 校)	河 原 弘 幸
”	養 護 教 諭 (附 属 中 学 校)	島 田 みどり
”	教 諭 (附 属 養 護 学 校)	永 瀬 行 幸
”	教 諭 (附 属 養 護 学 校)	平 野 隆 志
”	教 諭 (附 属 養 護 学 校)	金 山 薫
”	養 護 教 諭 (附 属 養 護 学 校)	松 原 祐 子
”	教 諭 (附 属 幼 稚 園)	開 仁 志
”	文 部 事 務 官 (附 属 学 校 第 一 係 長)	岩 永 晴 雄
”	臨 時 用 務 員 (附 属 学 校 第 一 係)	堰 免 芳 子
経 済 学 部	助 教 授 (比 較 経 済 論)	柳 井 雅 也
”	助 教 授 (比 較 経 済 論)	今 村 弘 子
”	助 教 授 (管 理 科 学)	古 川 勝
”	助 教 授 (管 理 科 学)	横 山 一 憲
”	講 師 (比 較 経 済 論)	大 西 吉 之
”	講 師 (政 策 科 学)	近 藤 ^{やす} 康 ^し 之
”	講 師 (企 業 関 係 法)	石 田 ^{まさ} 眞 ^{よし} 得
”	助 手 (比 較 経 済 論)	高 山 龍 太 郎
”	文 部 事 務 官 (用 度 主 任)	山 田 勇 一

部 局 名	職 名	氏 名
経 済 学 部	文部事務官 (庶務係)	杉 田 昇
”	文部事務官 (庶務係)	長 多 ^{もと} 玄 子
理 学 部	助 手 (数学科数理解析)	木 村 巖
”	助 手 (生物学科生体制御学)	成 田 欣 弥
”	助 教 授 (地球科学科地球 ダイナミクス)	藤 浩 明
工 学 部	教 授 (電子物性 デバイス工学)	Tikhodeev Sergei Grigorievich
”	講 師 (知能システム工学)	廣 林 茂 樹
”	助 手 (電子物性デバイス工学)	喜久田 寿 郎
”	助 手 (設計生産工学)	清 水 理 能
”	文部事務官 (庶務主任)	武 田 正 夫
”	文部事務官 (教務第二主任)	山 上 康 彦
”	事務補佐員 (庶務係)	源甲斐 美 里
”	臨時用務員 (用度係)	高 田 修
附 属 図 書 館	情報管理課長	星 野 茂 登 一
”	文部事務官 (参考調査係長)	四 津 忠 一
”	文部事務官 (図書情報係主任)	中 島 潤 子
”	文部事務官 (情報サービス係)	角 井 祭 子
”	文部事務官 (参考調査係)	高 尾 京 子
”	事務補佐員 (参考調査係)	高 瀬 雅 美

主 要 行 事

本 部

- 4月1日 第1回自己点検評価委員会教育活動専門委員会
第1回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
- 9日 第8回セクシュアル・ハラスメント等対応検討委員会
- 12日 平成11年度入学式（於：富山市芸術文化ホール）
教養教育オリエンテーション、学生部・保健管理センターオリエンテーション
- 13日 第2回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
職員教養研修（放送大学授業受講）開講式
- 14日 マレーシア工科大学副学長等来学
- 15日 第9回セクシュアル・ハラスメント等対応検討委員会
- 19日 第1回教養教育委員会管理運営専門委員会
全国就職指導ガイダンス（東京大学）
- 20日 新任教員説明会
- 21日 大学等就職問題連絡会議（ボルファートとやま）
- 22日 大学評価セミナー（東京都）
第1回廃液等問題検討委員会
- 22～23日 東海・北陸地区国立学校等会計系部課長会議（名古屋工業大学）
- 23日 第1回教養教育委員会企画専門委員会
- 26日 第1回体育施設運営協議会
- 27日 第1回教養教育委員会実施専門委員会
東海・北陸地区国立学校等施設担当部課長会議（名古屋工事事務所）
- 28日 第1回国際交流委員会留学生部会

人 文 学 部

- 4月7日 学部学生生活・就職指導委員会
学部教務委員会
独立大学院研究科（博士課程）設置に関するカリキュラム部会
教授会
研究科委員会

- 8日 学部予算委員会
学部図書委員会
独立大学院研究科（博士課程）設置に関する合同委員会
- 9日 学部広報委員会
- 14日 学部防火・防災委員会
学部情報処理委員会
- 15日 学部将来計画委員会
- 19日 独立大学院研究科（博士課程）設置検討委員会
- 21日 学部入学者選抜方法検討委員会
学部教務委員会
独立大学院研究科（博士課程）設置に関する企画部会
- 28日 教授会
研究科委員会

教 育 学 部

- 4月6日 学部就職指導委員会
学部教務委員会
附属小学校第1学期始業式
- 7日 学部学生生活委員会
教育学研究科委員会小委員会
附属小学校入学式
附属養護学校第1学期始業式
- 8日 教育学研究科委員会
教授会
人事教授会
附属養護学校入学式
附属中学校及び附属幼稚園第1学期始業式
- 9日 附属中学校入学式
- 12日 教育学研究科新入生オリエンテーション
附属幼稚園入園式
- 14日 前学期授業開始
人事教授会
学部学生新入生オリエンテーション
学部新入生健康診断
- 21日 人事検討委員会
拡大教育実習委員会
紀要編集委員会
- 27日 大学院連合教育学研究科（博士課程）設置構

想委員会（於：愛知教育大学）

- 28日 学部教務委員会
学部入学試験委員会
学部将来計画委員会

経済学部

- 4月6日 図書等委員会
8日 博士課程設置検討委員会
独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
9日 学部入学試験委員会
学部教務委員会
13日 人事教授会
研究科委員会
教授会
14日 学部国際交流委員会
21日 情報処理委員会
22日 総務委員会（持ち回り）
23日 学部教務委員会
26日 図書等委員会
27日 学部入学試験委員会
28日 人事教授会
教授会
総務委員会

理学部

- 4月4日 学部動物実験委員会
5日 学科長会議
7日 理工学研究科博士前期課程理学部会
教授会
教授会（人事）
8日 学部就職指導委員会
9日 理工学研究科博士前期課程理学部会教務検討
小委員会
理学部案内編纂委員会
13日 学部入試改善委員会
15日 学部教育実習委員会
19日 学部排水安全委員会
21日 学部教務委員会
理工学研究科博士後期課程部会
22日 学部学生生活委員会委員、構内交通対策委員
会委員及び交通指導員との合同会議
23日 理学部案内編纂委員会
28日 学部教務委員会
学部予算委員会
学部将来計画委員会

工学部

- 4月5日 学部教務委員会
6日 学部学生生活委員会
富山県立魚津高等学校から施設見学
7日 教授会
理工学研究科博士前期課程工学部会
9日 電子広報委員会
12日 3年次編入学生オリエンテーション
14日 新入生オリエンテーション
15日 授業開始
19日 学部図書委員会（持ち回り）
20日 入学試験検討委員会
学部教務委員会
21日 教授会
理工学研究科博士前期課程工学部会
工学研究科博士後期課程委員会
理工学研究科博士後期課程部会
30日 学部将来計画委員会
学部学生生活委員会

附属図書館

- 22～23日 第50回北信越国立大学図書館協議会
（於：長岡技術科学大学）

地域共同研究センター

- 4月27日 大学院生教育講座

留学生センター

- 14日 外国人留学生オリエンテーション

保健管理センター

- 4月14日 新入生定期健康診断・X線間接撮影
（教育学部・経済学部）
16日 大学院生定期健康診断（男子）
20日 大学院生定期健康診断（女子）
21日 新入生定期健康診断・X線間接撮影
（人文学部・理学部・工学部）
23日 在学生定期健康診断（工学部）・X線間接
撮影（工学部・理工学研究科）
27日 大学院生定期健康診断（男子）
28日 在学生定期健康診断（経済学部）・X線間接
撮影（経済学部・経済学研究科）
30日 大学院生定期健康診断（男子）

資

料

平成11年度富山大学入学者数一覽

(平11. 4. 12)

(学部)

学部	学科(課程)	入学者数	
人文学部	人文学科	70(2)	
	国際文化学科	55(1)	
	言語文化学科	84	
	計	209(3)	
教育学部	学校教育教員養成課程	103	
	生涯教育課程	40	
	情報教育課程	29(1)	
	計	172(1)	
経済学部	昼間主 コース	経済学科	162(3)
		経営学科	130(7)
		経営法学科	101(1)
		小計	393(11)
	夜間主 コース	経済学科	20
		経営学科	21
		経営法学科	20
		小計	61
	計	454(11)	
	理学部	数学科	52
物理学科		40	
化学科		36	
生物学科		36	
地球科学科		40	
生物圏環境科学科		31	
計		235	
工学部	電気電子システム工学科	97	
	知能情報工学科	86	
	機械知能システム工学科	100(4)	
	物質生命システム工学科	164	
	計	447(4)	
合 計	1,517(19)		

(学部第3年次編入学)

学部	学科等	入学者数	
人文学部	人文学科	2	
	国際文化学科	0	
	言語文化学科	3	
	計	5	
経済学部	昼間主 コース	経済学科	0
		経営学科	2
		経営法学科	0
		小計	2
	夜間主 コース	経済学科	1
		経営学科	2
		経営法学科	1
小計	4		
計	6		
理学部	数学科	1	
	物理学科	0	
	化学科	5	
	生物学科	3	

	地球科学科	3
	生物圏環境科学科	0
	計	12
工学部	電気電子システム工学科	8
	知能情報工学科	10
	機械知能システム工学科	7
	物質生命システム工学科	14
	計	39
合 計	62	

(大学院)

研究科(課程)	専攻	入学者数
人文科学研究科 (修士課程)	文化構造研究専攻	13(3)
	地域文化研究専攻	3(1)
	計	16(4)
教育学研究科 (修士課程)	学校教育専攻	8
	教科教育専攻	18(1)
	計	26(1)
経済学研究科 (修士課程)	地域・経済政策専攻	10(4)
	企業経営専攻	9(6)
	計	19(10)
理工学研究科 (博士前期課程)	数学専攻	12
	物理学専攻	15(2)
	化学専攻	12
	生物学専攻	8
	地球科学専攻	9
	生物圏環境科学専攻	9
	電子情報工学専攻	44(10)
	機械システム工学専攻	28(3)
	物質工学専攻	27(1)
	化学生物工学専攻	19(2)
小計	183(18)	
理工学研究科 (博士後期課程)	システム科学専攻	16(7)
	物質科学専攻	6(3)
	エネルギー科学専攻	6(3)
	生命環境科学専攻	10(2)
	小計	38(15)
計	221(33)	
合 計	282(48)	

(注) 表中の()は、外国人留学生で内数。

○入学者総数 1,861名



▲ 楽しい昼食（附属小学校）

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あげぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電 話 (424)1755(代)